

# めだかの学校だより

平成 26 年 9 月 5 日  
 第 85 号  
 学舎：周智郡森町一宮  
 「一宮総合センター」  
 事務局：静岡県磐田市  
 家田 529-20  
 TEL: 0539-62-6691

## 校長訓話

第八十五回 校長 富田 久美子

### 「我達人」

めだかの学校での授業の後、くじびきに当たりました。めったに当たることのない私が、大橋町代先生の書がいただけることになりました。意味もその場ではわからず、何枚の中から文字のバランスで（かつこよく見えたので…）選んだ書です。

ただ、「人」という文字だけは、理解できませんでした。

実は、私 人が大好きなのです。長野県境の山の中に生まれ育ちました。

道ゆく人に声をかけ、家に呼び、お茶とつけもので楽しそうに話し込む父と母の姿を見て育ちました。ときには、夕食も一緒に、そしてお風呂まで、「また、こいね。」という母のことは、いつしか私も人といることが、楽しくなりました。

いま、あの暖かな人のにぎわいが、なつかしくてたまりません。

三年ほど前に「めだかの学校」に通うみなさんとの出逢いがありました。「こんなすこい人がいるんだ。」といつも感動の場をいただき、また人との出逢いに感謝の気持ちでいっぱいになります。

そんな私のいまの仕事、そして役割は何だろうと思うこのごろ。

おかげさまで、毎日、毎日が人との出逢いです。子育て中のおかあさん、小さな宝物の子どもたちとの出逢いの一日一日があります。

門をくぐり入口のドアを開けて入ってくる子育て中のママと子どもたち。

おもわず「おかえり」と言ってしまう私、びっくりした顔のママ、「よくきたね。待ってたよ。」受けとめること、かわること、寄りそうことの難しさに時々立ち止まるときがあります。でも、そこにいる子どもたちからたくさんのエネルギーもらっている自分があることに気づきます。

「また、来るでね。」と、帰る親子。大きく手をひろげ、ぎゅっとだきしめる子ども、幸せなひとときです。

### 「我人と逢うなり」

人と逢おうという心を大切にしていきたい。人と逢える場を大切にしていきたい。めだかの学校の「おもしろ人立」これからの人生を豊かに楽しくしてくれる私の師匠をさがしに、そういつとのぞき、だれが生徒か先生か、わくわくしています。

子育て中のママと季節を遊び、次世代につなげていく仕事の中に、どこか良き人との出逢いがありますように。



「龍の子幼稚園子育て支援室 みち チーム「団塊」との七夕まつり」



## めだかの学校伝言板

——第 85 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。  
 校長／富田久美子  
 教頭／日比野雅彦  
 用務員／加藤ひとみ  
 給食係／鈴木祐之・大久保陽・鈴木青宵・野嶋一男  
 石野省三・牧野久子・富田久美子・中村やす代  
 加藤ひとみ・松島季実子・渡辺三ツ子(チーフ)  
 ※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

<学舎> 静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」  
 TEL: 0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成 26 年 9 月 5 日(金) 6:20PMより——  
 受 付／山下安範・大場あや子・大場敬子・斉藤昭(後見人)  
 22 期通年テーマ：  
 『初心にかえろう～あなたにとっての初心とは？～』  
 一期初特別授業 1 時限・1 時間—  
 今回のテーマ：<ときに学び、ときに生きるとは>  
 <時間割>  
 ●特別授業  
 社会科「戦後 70 年を前に…」  
 市原実 先生(習志野市)  
 ※期初のため「建学の精神(こころ)」唱和あり。  
 ●給食の時間 ～お月見ダンゴとマツタケご飯?～  
 10:00 閉校

# 泳ぎ回るめだかたち

## ■全国まちづくり交流会INヨロン島へ行ってきました

南国の島、与論島へ行ってきました。昨年、「遠州森町」で行われた全国まちづくり交流会が、舞台を鹿児島県与論町に移して6月28日開催され、私と榊原淑友メダカ、鈴木正士メダカ、大島たまよメダカ、山田勝恵さんの5名で参加しました。静岡県からは、中部国際空港からいったん沖縄・那覇空港まで行き、那覇からは年代物のプロペラ機で約30分、小さな島へと向かいました。

海拔も最高地点が1000m前後で、車で廻ればものの1時間前後で回ってこれるところですが、ところが、ここに何もものにも代えられないきれいな海があり、いろんな物語に出会いました。

交流会の会場は、与論中央公民館。全国からのなつかしい顔が勢揃い、また一方で、元気な新しい仲間がやってきていました。2階に上がると手作りの会場が用意され、約100人が集まり、最初に、第1部として基調講演があり、そのあと地元与論島や愛知県足助町や高知県馬路村などの事例が紹介されました。

私が、特に興味を引いたのが、岐阜県秦草村からUターンし、一人から毎日ゴミ拾いをはじめ、その後仲間とともに今も続けている「美ら島365日ゴミ拾い」で、彼らが気がつき始めたこの島の宝を、島の人やこの島を訪れた人たちを巻き込んでみんなで大切にし、この島を変えてくれるに違いないと思いました。私たちも、さっさと滞在2日間早朝ゴミ拾いに参加させて

いただきました。また、第2部として大交流会が行われた。私たちも前回開催地として、乾杯のあいさつの指名を受け、前回の開催のお礼のあいさつをさせていただきました。

「この島には3つの『けんぼう』があります。一つ目は『日本国憲法』、二つ目は『少林拳法』そして三つ目が『与論献奉(けんぼう)』ですと説明があり、特産品のサトウキビで作られた黒糖焼酎「有泉」が杯に注がれ、次回開催地、北海道ニセコ蘭越町へエールが送られました。

地元の郷土芸能や音楽が演奏され、私たちもこの「ヨロンケンポウ」の洗礼を受け、とっぷりと熱い夜を過ごすことになりました。とても賑やかで元気な大会となりました。村松達雄メダカ



## ■そばの里「深査ふんど」へ行ってきました

5月30日「行くよ、行くよ」と言いながら、なかなか行けなかった美濃加茂市の長谷川政夫メダカがオーナーの『そばの里「深査ふんど」』(加茂郡坂祝町深査)へ、妻の明美さんと愛車「バモス」に乗って行って来ました。磐田市の自宅を8時に出て、着いたのは昼の12時。高速道路はパソコンから地図を出してもらっていたので、美濃加茂ICまでは順調でしたが、

カーナビならぬバラナビ。いや、お店に着くまでに5回も聞く有様。近くまで来ている筈なのに分からない。1000mもいかない所に、そばの花畑に囲まれた落ち着いた感じのお店があった。「夫婦に久しぶりに会えると思うと胸がワクワクドキドキする。店も多くのお客様で混んでいたの、あいさつもそこに席に着く。長谷川メダカのそばを頂くのは何年ぶりだろう。初めて行ったのは、美濃加茂市の自宅に併設した『そば道場』だったから、16年前だろうか。

長谷川メダカ「夫婦とは、お客様が少しひけたところで、こだわりの手打ちそばを頂きながらしばし談話。旅先で倒れて救急車で病院に担ぎ込まれたとか、息子さんに先立たれた時のことなど、私たちも娘を先立たせている。思いは分かる。でもおふたりが元気で良かった。新しいお客様が見えられたこともあり「ゆっくりしていけば……」とおっしゃって頂いたが、2時間ほどの短い時間だったが、店を後にした。私たちが見えなくなるまで長谷川さんが玄関先で見送ってくれていた。(バタメダカ)

## ■『岩倉の山節の世帯』の出版記念

「変革の時代と『我々が世界』共創」内山節さんの『内山節著作集』全15巻、7月27日(日)14時~17時まで、明治大学グローバルフロント1F多目的室で、農文協、かがり火、三人委員会哲学塾全国ネットワーク主催で開催された。

内山節氏には、『開校60回・15周年記念めだかの学校大学院』で、特別講義で講演していただいた。

## ■『里山資本主義を天竜地域で実践

## する』

講師 藻谷浩介氏の講演会  
浜松市浜北区のなゆた浜北「なゆたホール」で、9月20日(土)14:00~16:00まで、「里山資本主義」、「デフレの正体」、「実測ニッポンの地域力」の著者である藻谷浩介氏の講演会がある。

三遠南信地域、中山間地の活性化の方向や地域ビジネスについて学ぼう、とNPO法人・三遠南信アミが主催。参加費は千円。お申込み、お問合せは053・457・3818へ。講師 藻谷浩介氏については、『かがり火』2013、No154号で『里山資本主義を阻害するものは何か』、4頁にわたってインタビュー記事が載っている。2014、No157号には、菅原欽一メダカが『しなやかな日本列島のつくりかた』(新潮社刊)の書評を書いている。本を読んで講演会に出掛けたいなら、『目からウロコ』なんておっしゃったりして。ハイ。

## ■第32回地域づくり団体全国研修交流会「三重大会」

地域づくり団体全国研修交流会「三重大会」が、平成26年11月8日(土)・9日(日)の2日間、三重県津市の三重県総合文化センターを全体会場に。県内21市町を分科会の会場として開催される。詳細は地域活性化センターで発行している「地域づくり」8月号で送られてきます。近くの県ですのぜひ参加を！。興味のある方は、事務局0539・62・6691榊原まで。

## 『人・ひと・ヒト……だより』

●三重県津市の杉谷知也メダカ。「六月末が出産予定で、ヨロン島へ行けない」と言っていたが、7月1日に元気な男の子が誕生。名前は綾斗(あやと)ちゃん。お父さんにそっくりとか、良かったね。

●静岡市清水区の花井孝メダカ。「花井さんがテレビに出ている」妻の呼ぶ声。花井メダカの奥さんの「エツコさん」だった。SBSの夕方の小沼みどりさんの「昭和の3丁目」の番組だった。静岡県で一番大きく、種類も内容も充実している。「マルハナ」帽子店。花井メダカも粋で素敵だが、奥さんも素敵な人だね。花井メダカと言えば、鎌倉時代の名僧で静岡生まれで、静岡にお茶を伝えた聖一國師を知ってもらおうと、まんが聖一國師物語」を発行。聖一國師は京都の伏見東福寺を開山。福岡・博多では、祇園山笠の創始者として有名。静岡市足久保の人が、生家の水を持っていつて祇園山笠祭りでも撒いた」と新聞記事に載っていた。まんが本のダイジェスト版もいただきました。

●磐田市の声川和美メダカ。福田豊浜海岸で7月19・20の2日間、磐田市長杯ビーチクリンLine・up・capperフィン大会を開催。150人の選手が朝5時半から競技を競いあった。海岸も清掃し、夜は交流コンサートと。雷が鳴ったり、激しい夕立に見舞われたりの不安定な天候だったがようがんばりました。

6月21・22日には、全日本ジュニアサーフィン選手権大会・シニア全日本選手権大会を福田豊浜海岸に招致。来賓では渡部市長と、議長の小野康弘メダカがあいさつ。榊原幸雄メダカも観光協会に来賓出席。ただサーファーにメダカ生がいなかったのは淋しかったね。

●浜松市引佐町の石野省三メダカ。NPO法人ひずるしい鎮玉の理事・里山グルーブのリーダーとして地域をひっぱる。8月10日(日)には、8時半〜午後2時まで都田川の支流久留女木川で、鮎の友釣りの体験会を開く。定員10名・2000円。鮎は鮎の塩焼きを食べながら交流だって。

200mほど下流の都田ダム湖野外ステージの花壇にコスモスの種を蒔いて10月頃、野外コンサートを予定。出演者を募集中。問い合わせは、053・544・1045事務局へ

●磐田市の村田徳治メダカ。磐田市中泉のワークピアで、毎月第二月曜日、夜七時から八時半まで、多くのボランティア仲間が参加して、インターネットTV・webtvを開設し生放送をしている。今村純子・大島たまよ・山下安範・松島季実代・榊原幸雄各メダカからもスタッフとして、また司会、出演、広報マンとして。出演者も村松達雄・榊原淑友・田邊哲・藤田潤吉・久枝・伊藤静男・鈴木武史・中村明男メダカ以外の多数の生徒も出演している。

次回8月は外に出て9日に開催の「よおかふれあい夜店市」で夕方四時から八時まで実況生放送する。盆踊りから90台の軽トラ市まで、イベントも盛りだくさん、お出かけを!

●浜松市細江町の上嶋裕志メダカ。「第六回廻道検定」100問出題の用紙を配布。磐田市の見附宿から豊川市の御油宿までの、史跡や建造物の位置などから出題。来年は家康没後六〇〇年、そちらの方からの出題も。参加費は千円、(問題用紙は無料)。解答の締切は2015年1月10日。問合せは、053・523・2158廻道道来塾代表上嶋まで。

●浜松市の水島加寿代メダカ、フリーライターで、NPO法人「三遠南信アミ」の理事で、故松田不秋メダカの後継者として大奮闘。7月21日、磐田市の醍醐荘で開かれた「第四回「食と農」から人とまちを元気にするプロジェクト」にスタッフとして参加。第四回は静岡県最大の地域資源の一つ、「緑茶」をテーマに、お茶を食べる・飲む・お茶尽くしの料理をいただいたの会。

「美味しかったヨ」とバラメダカ。●大島たまよメダカ。スタッフとして参加しながら、醍醐荘から市民農園を借りて日本古来の綿「真綿」の種子を播いている。福田地区はガラ紡の地元。布を織ると、もちろん藍染め用の藍も植えましたよ。

●浜松市天竜区の本島慎一郎、真弓メダカ、NPO法人「元氣里山」を通して、放置されかかった茶畑を借り受け、お茶を商品化している。春野町川上外山産の浅蒸し茶、「一袋一〇〇グラム九百円と、磐田市大平産の深蒸し茶一袋一〇〇グラム八百円。ともに化学肥料も農薬も使わないお茶。商品は二俣町二俣の「マルカワ」の蔵。又水」で販売している。問合せは053・725・2792へ。

※新人生紹介

●磐田市の宮澤博行メダカ。旧龍山村出身、剣道四段の衆議院議員「私にまかせて、全力投球!」と、色々なところに顔を出して意気も盛ん。昨年森町で開催した第11回まちづくり交流会では、参加者ひとりひとりに声をかけながら名刺を配っていた姿に感心もしつつマイッタなアでございました。

XXXX XXXX  
今回は紙面の都合でこれまででは皆さまごきげんよう。

《めだか春秋》

平成26年7月22日 小山町でのお話

富士山の麓にある小山町に来て初めての夏を迎えている。4月当初の寒さは5月まで及んだが、その分夏は涼しい。住まいは役場北側の和田坂と名付けられた坂の途中にある。小山町の経済の礎をつくった

富士紡績の社長故和田豊治翁の名前が付けられている。我が家は町が買い上げたその工場長宅「六合山荘」である。茅葺の屋根に金属屋根がかぶせられていて、ヤモリも同居する古い家だ。7室もあり洗面所と家事室にはトップライトがついている。洗濯機、レンジ、トースター、掃除機、炊飯器、書棚、食器棚から器、鍋、そして客布団まで役場の皆の「厚意」によって提供していた。町長からはこの家を交流の場に使おうように指示が出ている。4月には早速、東京、神奈川、県内各地からお越しいただき町長、職員含め25人ほどでそは会を開いた。その時にお越しいただいた東海大学の杉本教授には町の公園の再整備計画や観光振興策について6月にはプレゼンテーションもいただいている。

さて、役場では経済建設部専門監という職名をいただいているが、関係する課長は10人、部をまたいでおり、実態と合わなくなっている。町長からの特命事項を担当課長と打合せしながら実現に向け道を拓くことが小生の役割だ。健康福祉会館、役場エントランス部のリニューアル、足柄駅のコミュニティセンター化、足柄温泉のミ二道の駅建設、須走小学校校舎増築、南藤曲宅地造成設計施工一括発注、金時公園・誓いの丘の再整備、NPO活動支援、観光振興計画、景観計画策定、どぶろく特区、企業誘致、こんなところが具体的に仕事だ。これまで県庁、由布院、豊岡村で体験し学び得たこと、人的ネットワークをフル動員しての内容になっている。

しばらくは小山町にはまりそう。めだかの学校への登校は殆どできそうにない。どうか皆様方の方から訪ねてきてほしい。小山町経済建設部 専門監 溝口久 〒410・1304 小山町藤曲54・4

# トピックス

## ■やるヨ！わらび座手塚治原作のミュージカル『ブッタ』公演

わらび座は秋田県の山間部を拠点に全国に感動を送りつづけている劇団。私たちも若い頃「わらび座」を呼ぶために実行委員会までつくって公演会を開いたもので。その時の熱気は凄いものでした。その「わらび座」を時は違ったとはいえ、「めだかの学校」と磐田市の他団体とが連携して上演会を開くことにしました。

公演日は12月13日の土曜日です。劇団も会場も押さえてあります。会場は磐田市二之宮の「磐田市民文化会館」。定員1500席。8月半ばまでに実行委員会を組織して進める予定です。

この作品は、ブッタの若き修行時代を描いたもので、役者の歌唱力と演技力は迫力をもって迫ってきます。

今回の公演にあたっては、磐田市文化振興会や磐田市、磐田市教育委員会、磐田市文化協会、磐田市ボランティアふれあいガイドの会など多くの団体の方が共催、後援協力で応援してくださる予定です。

とにかくくみんなどで燃えましよう！めだかの学校開校22年を記念して。



■事務局だより  
暑つらい！マイッタでございます。なの我が家のクーラーは、自然の風の方がい

いと、ほとんどスイッチONにはなりません。省エネとエコに協力しているのですが。

第84回めだかの学校は、平成26年6月6日、校長天野智加志、教頭中村やす代、用務員星野直樹、異色トリオもいね。一時間目、国語「時の流れの中で今思うこと」は・・・大橋町代先生。数点の「書」を書いてきて、筆の力の入れ方をツートンツーンと声を出して空中でなぞらせる。後日「書」をもらった人が「青氷」って何と聞かれたので調べた、と。事務局へ「文が来たので載せます。荀子の勸学篇に「学は以てやむべからず。青は之を藍より取りて藍より青し。水は水之をなして水よりつめたし」とある。藍(草)からとった青色。水が凍った氷のように、元から出て元のものよりすぐれたもの。と。二時間目、社会「思えばこそ叶うことあり...」池谷俊裕先生。「園芸博から10年、10年目の先生、椿のこと、草を使った緑化事業などを語る。三時間目、生活「20分? 想いが多くて足りない」金子芳美先生。福島へ行って来た。帰還困難区域と一時帰還許可の出ている町などバスで回った。福島県原産避難者は14万人。未だ故郷へ帰られない人たちの思いが胸に迫る。忘れるなかれ、と。天野智加志校長訓話。舞楽は舞踊で、雅楽は管弦舞楽、朗詠、催馬楽、と。得意の茶道についても、まだ修行中とはいえ博識、凄

い。事務局からは、第84回の便りに同封するはずの申込書を忘れ、手続きできず、ごめん、と。お楽しみ給食は、武ちゃん農園のじゃが芋三昧。ガスの元栓が分からず少し焦ったが、じゃが芋が少しつぶれ気味だったが、美味しく肉じゃがが食べられた。甘々娘、トウモロコシのがぶりつき、美味しいね。榊原淑友メダカありがとう。夏もたけなわの「私語飲食全て禁止の次期三役発表」。第85回校長青川和美、アし、

いない?。教頭日野雅彦、用務員加藤ひとみ。芦川メダカ、体調すぐれず早退。目が合ってしまった富田久美子メダカを校長に指名。給食係も決めて、全員で片付け。給食係は厨房の片付けに、他の生徒は大きな輪をつくって「今日の日はさようなら」を歌いつつ握手して閉校に。給食係さんいつもありがとう。

さて、第85回めだかの学校は平成26年9月5日。職員会議を7月10日学舎で開く。当日、台風が遠州地方へ上陸の予報。時折強い風と雨。「この天気でもやるの?」「めだかの学校は台風でもやる!」の返事。富田校長、日比野教頭、加藤用務員ら13名が出席。「台風が来ているので、早く終わろう」と、ヨロン島の報告はせず、22期の通年テーマと、期首特別授業の内容を決める。21年間の「めだかの便り」をみると本当にいろいろなることをやっている。「初心にかえってみるのもいいね」と。「初心にかえろう」に決める。「特別授業の先生は...」。元山梨大学の教授で、日本一美しい村の事務局長になった市原実メダカの話も聞きたいね」と、市原実メダカに決まる。翌日、電話で了解をいただく。「来年は戦後70年...」と日比野教頭、ならば特別授業は、社会科「戦後70年を前に...」市原実先生で決まる。台風がそれたようだが早めに終わる。細かいところは事務局で困ったもんですヨ。今回のテーマを考えているうちに「そうだ、開校85回記念に宿題を出そう!!」とバラメダカ。

■第85回記念「宿題」提出  
タイトルは自由だが、名前、本文を含んで50文字。字余り厳禁。「この事を知っているのは、石野省三メダカ、鈴木武史メダカ、間瀬メダカ。私の4人のみ。これぞ「めだか流」。返信用のハガキ同封。必ずすヨ。

■第22期の受け付け始めました  
第22期は、平成26年9月1日から平成27年8月31日までです。同封の申込書に必要事項を記入のうえ、1000円を添えて、8月31日までに郵送又は「持参下さい。9月5日の開校日に持参下さっても可です。申込み手続きをされない生徒は、名簿からはずれ自主大学となります。

■めだかの学校だよりの原稿を!  
次回の発行は、11月1日予定。締切りは、10月20日です。ぜひご連絡を! 郵便かFAXで。メールの方は、  
《mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp》  
間瀬亮太090・5009・0986です。  
(メールの方は割付の関係もあるので一報を。)

■めだかの学校の事務局  
〒438・0105 静岡県磐田市家田5  
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05  
39・62・6691 (FAX同じ)  
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一宮3150。電話0538・89・77  
30 開校日の午後4時以降のみ使用可。  
携帯080・1612・9130

■第85回記念「宿題」提出あり!  
必ず忘れずに!

■よし、今回は発行日!...  
結果は...「ごめん。伊藤英雄メダカ、鈴木武史メダカ、石野省三メダカ、溝口久メダカ、村松達雄メダカ、静岡県庁のしずおか未来つくりネットワーク担当の山本さん、いつも手数をかける間瀬亮太メダカありがとう。榊原明美さん感謝!」

■事務局だより  
暑つらい!マイッタでございます。なの我が家のクーラーは、自然の風の方がい

